

## 第9章 本格調査での留意事項



## 第9章 本格調査での留意事項

- (1) ボツワナでは、全国開発計画が政府の政策運営の基本計画として重視されている。村落電化は第8次全国開発計画の重要な課題となっており、第9次全国開発計画には今回のP V村落電化M / Pの内容を盛り込むことが望ましい。第9次全国開発計画は、2002/03年を初年度とする5か年計画であり、策定作業は約2年前から開始される。このため、本M / Pの内容を第9次全国開発計画に盛り込むためには、時間的な制約から、遅くとも本調査の中間報告にM / Pの基本的な内容を盛り込むことが必要である。
- (2) 本調査はP Vシステムによる村落電化M / P作成を目的としたものであるが、村落電化についてはB P Cの送配電網拡大による村落電化も精力的に行われていることから、これに係る計画、政府の助成、村落電化共同スキームについて十分な調査を行い、整合性がとれたM / P作成を目指す必要がある。
- (3) 村落電化共同スキーム及び全国P V村落電化プログラムを統一して、包括的な村落電化助成政策を確立することについて、可能性を検討すべきである。
- (4) 〔道路事情〕主要幹線以外は牛牧路のような道で、四輪駆動車でないと走行困難である。ボツワナでは幹線道路でも交通量が少なく歩行者も全くと言っていいくらいいないことに加え、小村への分岐道の標識がほとんどないので、奥地の村落訪問の際には位置確認の注意が絶えず必要である（GPSがあれば望ましい）。
- (5) 〔言語〕村落では、中高年は英語を解さない人が多い。地方公務員として英語ができる人が村に来ているが、住民との交渉などは公用語のセツワナ語の通訳を介さないと難しい。また民族によってはセツワナ語よりも民族語が通じやすいので、英語から民族語への通訳が必要となる。
- (6) 〔キーパーソン〕一般的に、村長は伝統的な権威をもっている。社会調査等、村人に接触する場合は、まず村長の下承を取り付けることが必要であり、又、プロジェクトの順調な振興にも村長の支援が必要であると考えられる。